

## 財務部

# 沖縄経済は回復

### Point

沖縄経済は、観光が引き続き好調に推移し、個人消費は順調、住宅建設は引き続き好調であることから、全体としては回復しています。



#### 主要項目の動向

### ① 個人消費



順調となっている

個人消費をみると、百貨店は、身の回り品が増加していることなどから前年を上回っている。主要スーパーは、主力の飲食料品が堅調なことや新規出店効果から、前年を上回っている。コンビニエンスストアも、店舗数が増加していることから前年を上回っている。耐久消費財の動向をみると、

#### 主要項目の動向

### ② 観光

引き続き好調に推移



観光入込客数は、航空会社のキャンペーン効果、新規参入路線の増加もあり、10月以降6ヶ月連続で前年を上回り、同月過去最高を記録した。主要ホテルについては、客室稼働率、客室単価ともに前年を上回っている。観光関連施設入場者数は前年を上回っている。このように、観光は引き続き好調に推移している。先行きについても、予約状況は順調なものとなっている。

#### 主要項目の動向

### ③ 雇用情勢



緩やかに改善

有効求人倍率は、このところ低下している。一方、新規求職申込件数は引き続き減少しており、新規求人数がこのところ減少しているなか、県内就業向け求人については順調に推移している。また、県外からの受求人数は引き続き増加している。このように、雇用情勢は緩やかに改善している。

#### その他の項目の動向

**住宅建設** 住宅建設を新設住宅着工戸数でみると、持家、貸家、分譲いずれも前年を上回っており、引き続き好調なものとなっている。

**設備投資** 18年度の設備投資実績見込み額を法人企業景気予測調査（19年1～3月期）でみると、全産業では34.0%の増加と前年度を上回る見込みとなっている。

**公共事業** 公共事業の動向をみると、公共工事前払金保証請負額は、このところ持ち直しているものの、前年を下回っている。

**生産活動** 生産活動をみると、窯業・土石では、民需向けが順調なほ

### ！ 総括判断

H19年1月

緩やかな回復が続いている

H19年4月

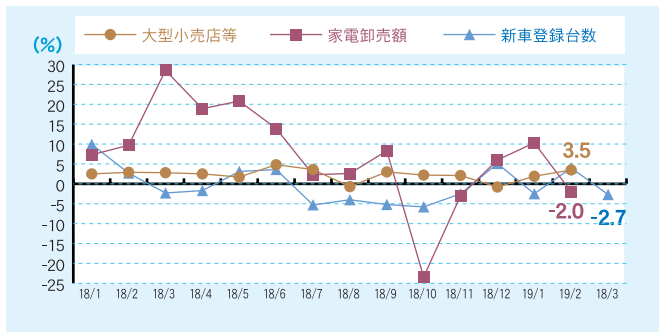
回復している

前回との比較



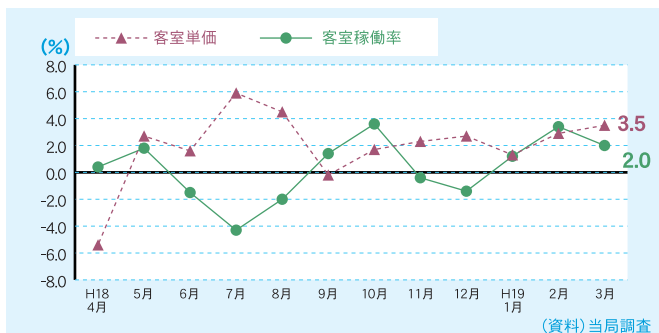
# 管内経済情勢報告(平成19年4月)

大型小売店等販売額、家電卸売額、新車登録台数(前年比)

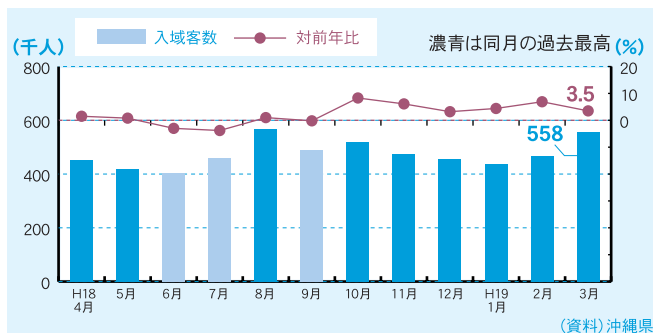


家電販売は、薄型テレビや白物家電が好調なこと、前年を上回っている。新車販売は、軽自動車は前年を上回っているものの、普通乗用車及び小型乗用車は前年を下回っている。中古車販売は前年を下回っている。このように、個人消費の動きは順調なものとなっている。

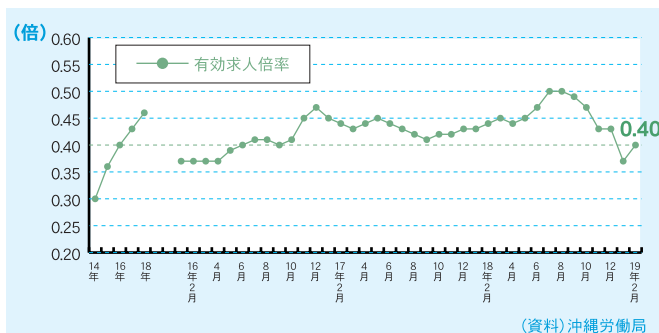
主要ホテルの客室稼働率(前年差)、客室単価(前年比)



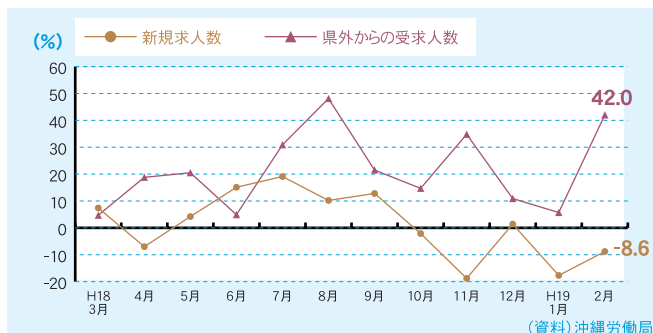
観光入込客数(前年比)



有効求人倍率



新規求人数、県外からの受求人数(前年比)



**企業の景況感** 法人企業景況予測調査(19年1～3月期)の景況判断BSIでみると、製造業では、「下降」とする企業が増加していることから、「上昇」超幅が縮小している。非製造業では、運輸などで「上昇」とする企業が増加している一方、建設などで「下降」とする企業が増加していることから、「下降」超幅がほぼ横ばいとなっている。

この結果、全産業では、「上昇」と「下降」の均衡から「下降」超に転じている。

18年度通期は、製造業、非製造業とも「増益」とみていることから、全産業では5・1%の「増益」見込みとなっている。

**企業収益** 経常利益を法人企業景況予測調査(19年1～3月期)でみると、18年度下期は、製造業、非製造業とも「減益」とみていることから、全産業では0・6%の「減益」見込みとなっている。

このように、生産活動は弱含みながら一部に持ち直しの動きがみられる。官公需向けも動きがみられることから前年を上回っている。金属製品では、県外向け等で動きがみられることから前年を上回っている。食料品では、食肉加工品は県外向けが順調なものの、酒類は県外向けが減少していることなどから前年を下回っている。